

東京代協中央支部

鉄人防災士が体験型セミナー実施 非常食作りやトイレ対策など学ぶ

東京代協中央支部(井上泰弘支部長)は11月11日、東京都中央区の京橋プラザ区民館で令和7年度(2025年度)中央支部セミナーを2部構成で実施。第1部「鉄人防災士による防災・BCP対策検討のための防災体験セミナー」では、参加者が非常用トイレの凝固剤を実際に試したり、非常食を作って試食する体験をした。第2部では前支部長の廣川弘城氏が医療現場における最新の「ダビンチ手術」を紹介。がんに立ち向かう医療の最前線を解説した。



停電を想定した暗い室内で非常食作りに挑戦する参加者



井上氏



丸島氏



廣川氏

セミナーでは参加者がグループを組み、ラントンに明かりを付け、薄暗い

昨年1月には能登半島地震が発生し石川県の能登地域を中心に甚大な被害が発生した。一方、今年に入り南海トラフ地震の30年以内の発生確率が「60%から90%」と改定されるなど地震災害への警戒がますます高まっている。こうした現状を踏

まえ、東京代協中央支部ではBCP対策検討の一助として体験型防災セミナーを実施。2部構成で始まったセミナー第1部では、東京都中央区で防

災用品やオフィス用品などを手掛けるコール・ミ

1(丸島冬隆代表取締役)の協力の下、参加者

防炎士の資格を持つ講

第2部ではダビンチ手術を紹介



グループに分かれた体験型セミナー(第1部)

が非常食作りやトイレ凝固剤使用実験、防寒用アルミシートの保温性の違いなどを体験した。冒頭、中央支部長の井上泰弘氏は、「セミナー直後に大地震が発生する可能性もゼロではない。今日の

状況の中で備蓄品を準備した。被災時の重要なポイントとなるトイレについては、黒いビニール袋に凝固剤と水(セミナーではペットボトルの水で代用)を用意し、実際に固まり具合と処理の仕方

を学んだ。非常食では火を使わずに温められるレトルト保存食など3種類を実際に作り試食。ま

た、保温用アルミシートでは素材の違いにより暖かさが異なる点も確認。講演最後に丸島氏は「助けられる人から助ける人へ」とのキーワードを示し、自分の命を自分で守ることで他者を助けることができると強調した。第2部では前支部長の廣川弘城氏が前立腺がんにおける最新ロボット手術「ダビンチ手術」を紹介。医師が手動で行う手術との精度の違いや患者の体への負担軽減効果などを説明した。廣川氏は、がん保険に加入して4カ月目にかんが発見されたケースもあるとして、「保険代理店は顧客を守る使命がある」と述べ、がん保険の重要性をあらためて指摘した。